

国立公園事業の決定・変更・廃止 案件に関する説明資料

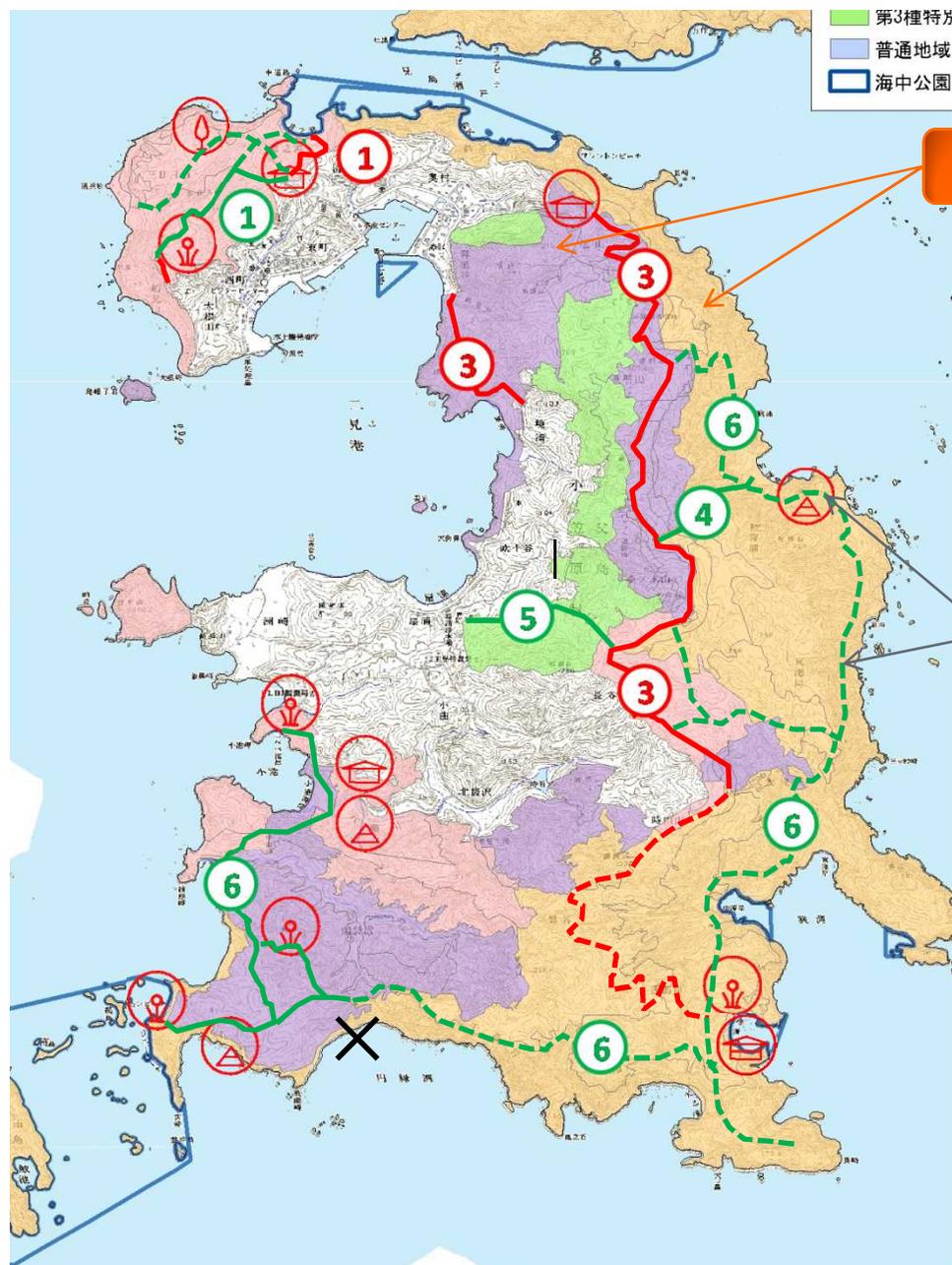
決定 38件、廃止 29件

決定・廃止案件のうち過去の公園計画変更等に伴うもの

- 釧路湿原国立公園 決定・廃止各 4事業
→ 合計8事業
- 屋久島国立公園 決定・廃止各25事業
→ 合計50事業

変更 3件

■ 公園計画の決定



規制計画

保護規制計画

- ・特別地域
(特保、第1種～第3種)
- ・海域公園地区
- ・普通地域

施設計画

- ・利用施設計画
道路、宿舎、園地など
- ・保護施設計画
自然再生施設、
植生復元施設など

■ 公園事業の決定

施設計画

大まかな位置、整備方針を決定



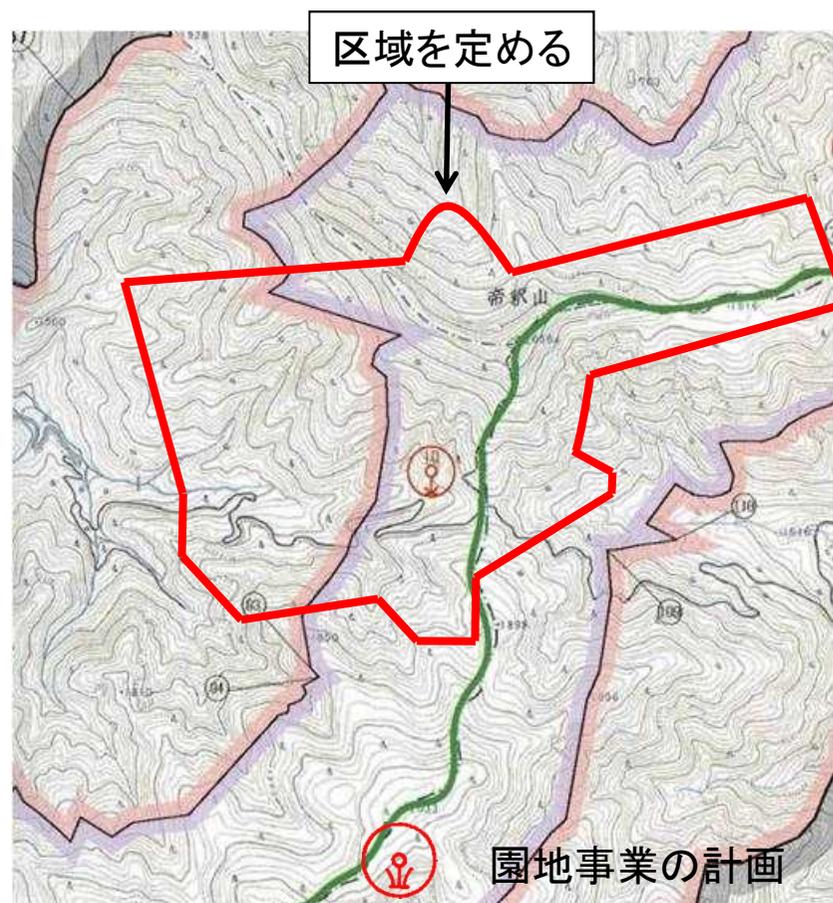
公園事業の決定

より具体的な位置や路線距離、区域面積、
収容人数などの規模を決定

＜決定すべき規模の例＞

事業の種類	規模
道路(車道)	路線距離(km)、有効幅員(m)
道路(歩道)	路線距離(km)
園地	区域面積(ha)
宿舎	区域面積(ha)、最大宿泊者数(人/日)

イメージ図(園地の例)



公園事業の 決定の要件

- (1) 事業の内容が公園計画に適合していること。
- (2) 事業の内容が風致景観の保護上支障のないこと。
- (3) 国立公園事業の執行の見込みがあること。

本日の諮問案件①

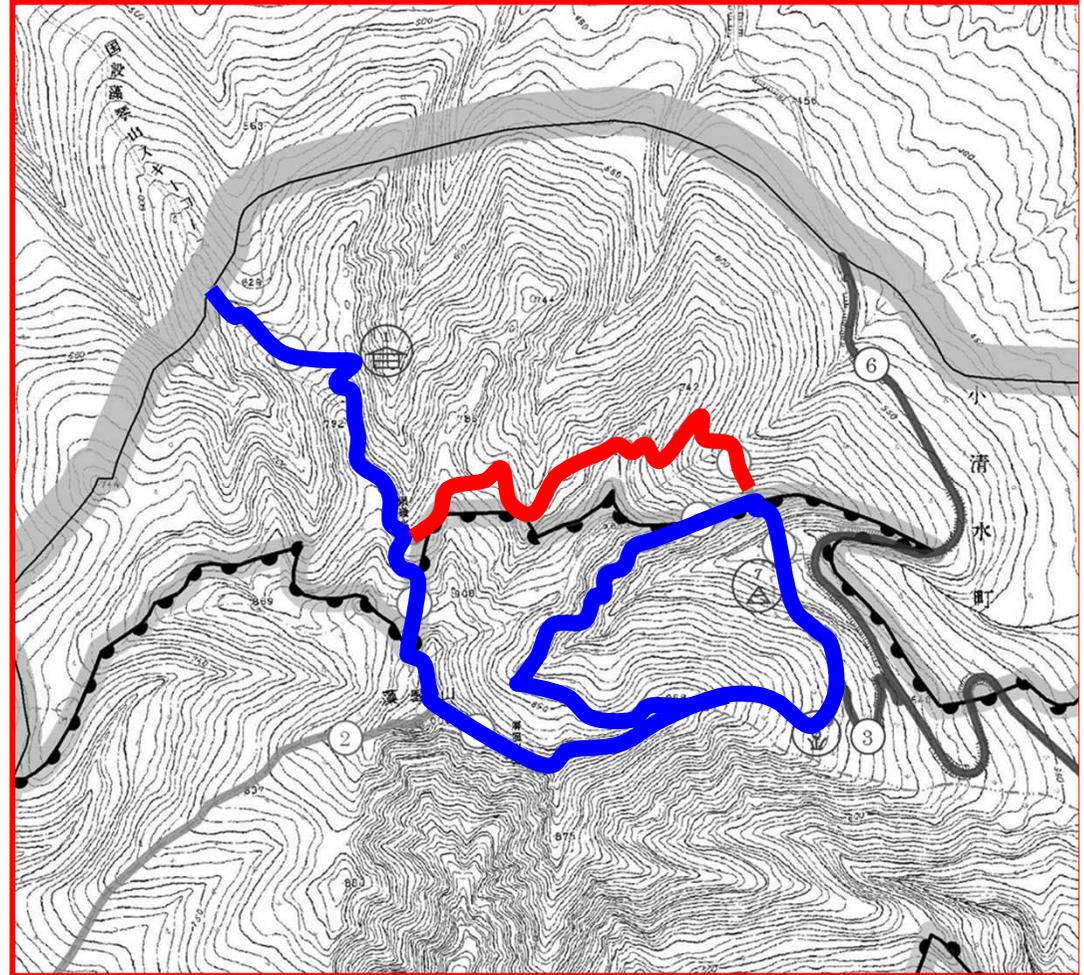
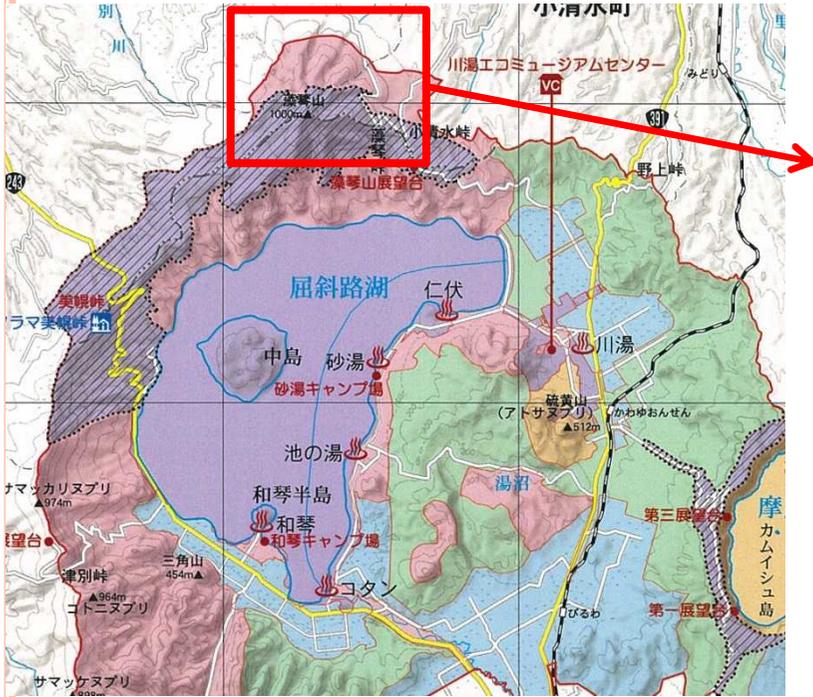
番号	国立公園名	事業名		事業執行者 (予定)	内容
1	阿寒	藻琴山登山線道路(歩道)	変更	林野庁、小清水町	公園計画の変更に伴う事業決定路線の変更
2	南アルプス	塩見岳宿舎	変更	伊那市	未決定事項の決定
3	上信越高原	黒姫山東麓索道運送施設	変更	民間	山下池宿舎の一部廃止、園地事業への振替
4	中部山岳	笠・抜戸縦走線道路(歩道)	決定	高山市	既存施設の公園事業への位置付け
5	中部山岳	槍平・南岳線道路(歩道)	決定	高山市	既存施設の公園事業への位置付け
6	中部山岳	笠新道線道路(歩道)	決定	高山市	既存施設の公園事業への位置付け
7	中部山岳	槍ヶ岳ワサビ平線道路(歩道)	決定	高山市	既存施設の公園事業への位置付け
8	瀬戸内海	高崎山園地	決定	大分市	公園計画の変更に伴う決定
9	瀬戸内海	高崎山線道路(歩道)	決定	大分市	公園計画の変更に伴う決定
10	阿蘇くじゅう	山下池園地	決定	民間	再整備に伴い山下池宿舎からの振替整理
11	霧島錦江湾	栗野牧園線道路(車道)	決定	鹿児島県	既存施設の公園事業への位置付け
12	霧島錦江湾	皇子原高千穂峰線道路(歩道)	決定	高原町	既存施設の公園事業への位置付け

阿寒国立公園 変更

藻琴山登山線道路(歩道)

青線:現在の決定路線

赤色:新たに追加する路線



<事業決定の変更>

路線距離 8km → 12km

公園計画の変更に伴う路線の追加

<事業執行予定者>

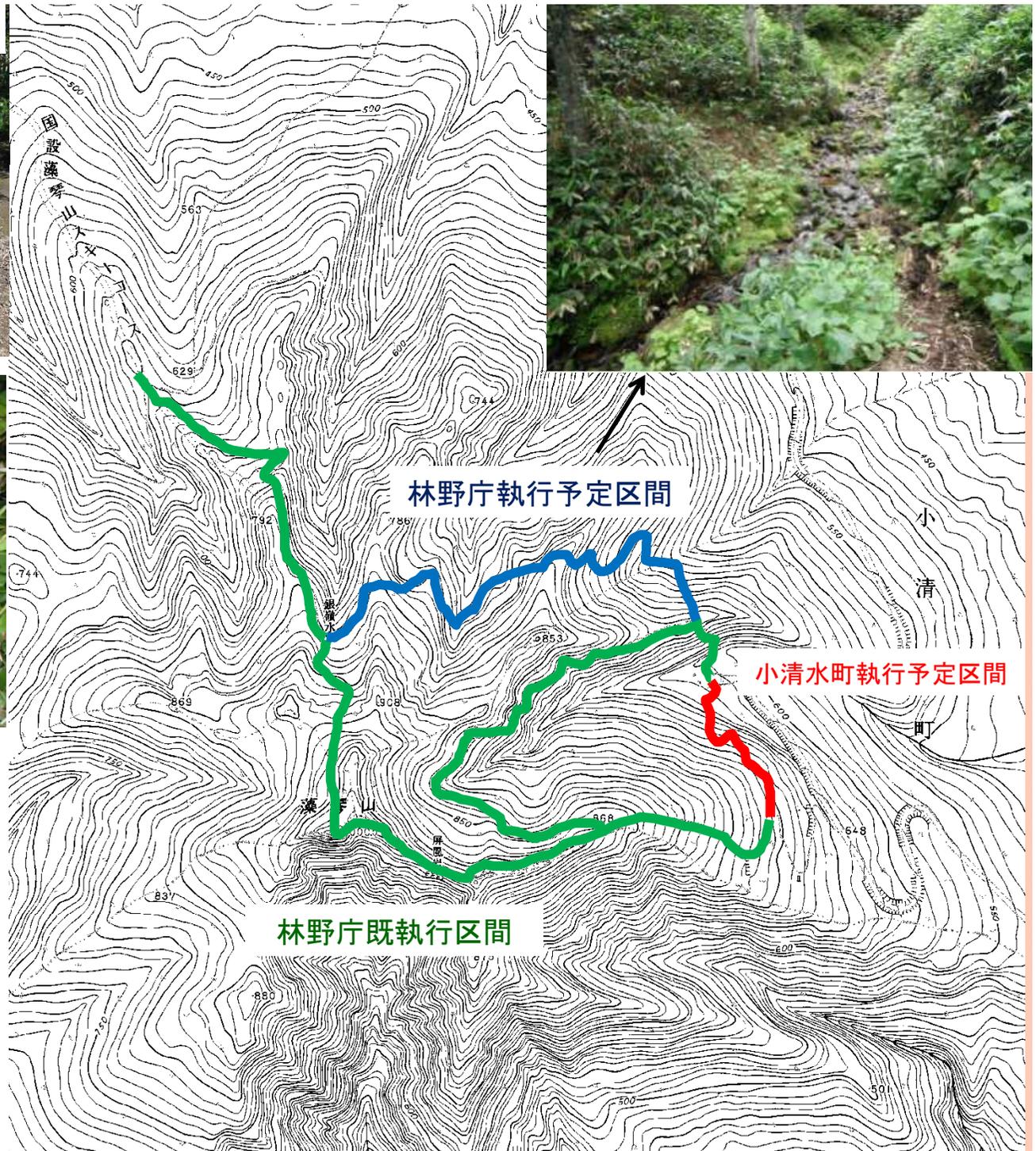
林野庁、小清水町



植生保護柵



標識整備



年間3000人近い利用者
新たに事業決定する区間は、
林野庁が事業執行予定



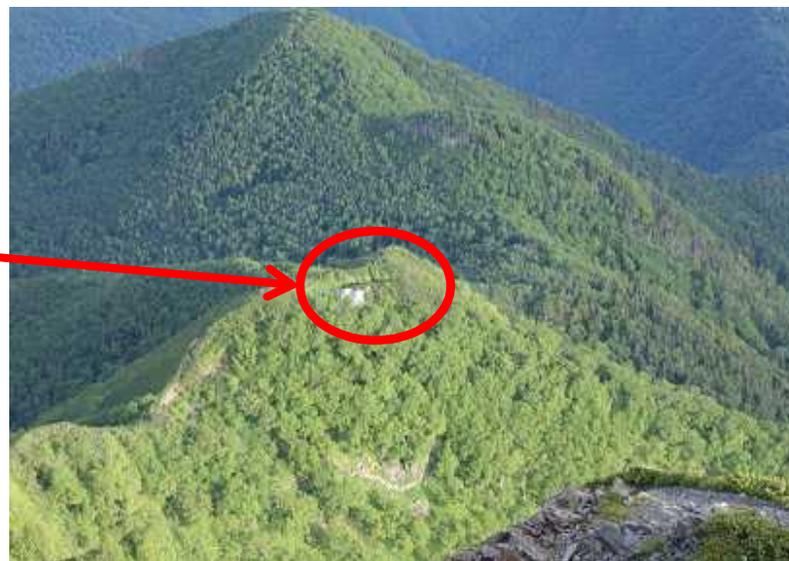
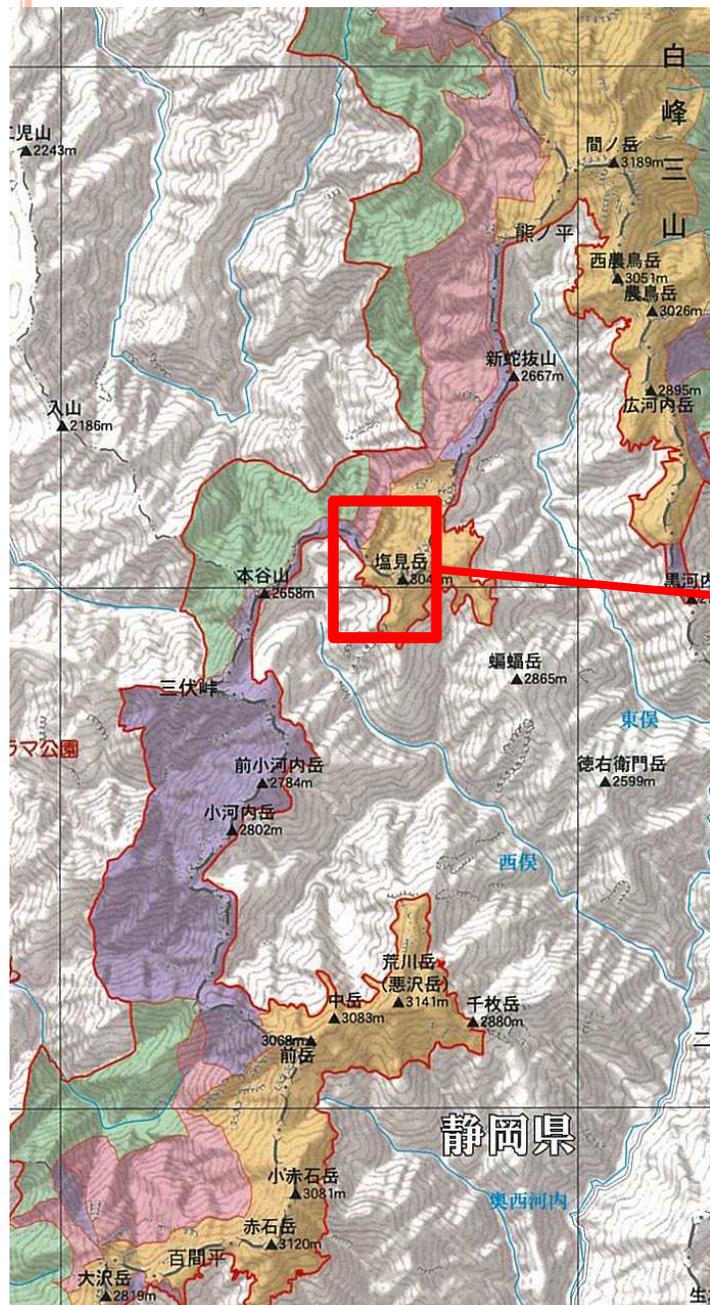
ササ刈り等日常的な維持管理
の他、植生保護柵や標識の整備
を検討している。

南アルプス国立公園 変更 塩見岳宿舎

北岳を中心とした北部地域と荒川岳・赤岳を中心とした南部地域の間をつなぐ稜線上に位置

※周辺の小屋

熊ノ平小屋(塩見岳宿舎より北へ5時間) 70人収容
三伏峠小屋(塩見岳宿舎より南へ4時間半) 120人収容



＜事業決定の変更＞

区域面積 0.07ha 最大宿泊人数 70人
事業決定はなされていたものの、未決定であった規模を決定

＜事業執行者＞ 伊那市

宿泊棟の内部



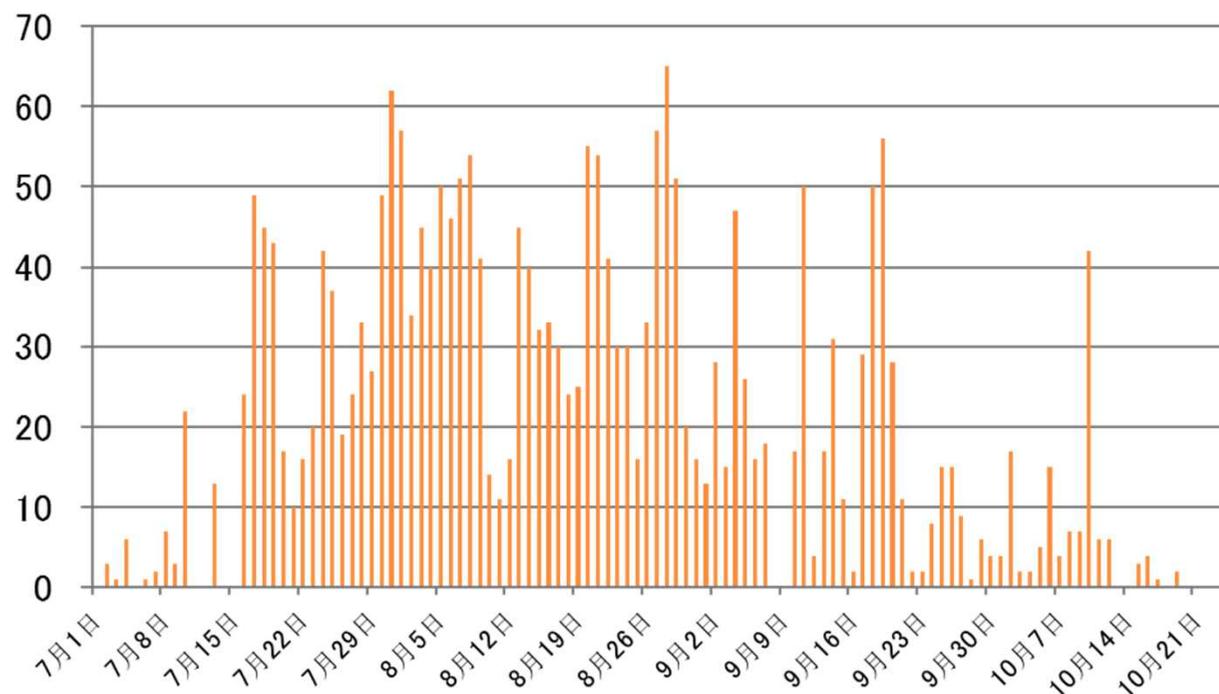
宿泊棟(左)と食堂棟(右)



宿泊棟(左)と仮設宿泊棟(右)



平成22年度宿泊者数



◎日最大宿泊者数

7月～10月中旬供用中に年間約2500人が宿泊
日最大宿泊数は65人程度

（伊那市より**伊那市観光株式会社**が委託され管理）

単位：日

◎宿泊用トイレ

携帯トイレを使用

使用積みトイレはヘリにより荷下ろし

→ 現在の使用実績(日最大65人の宿泊者)において問題は発生していないが、これ以上増加すると対応が困難になると考えられる。

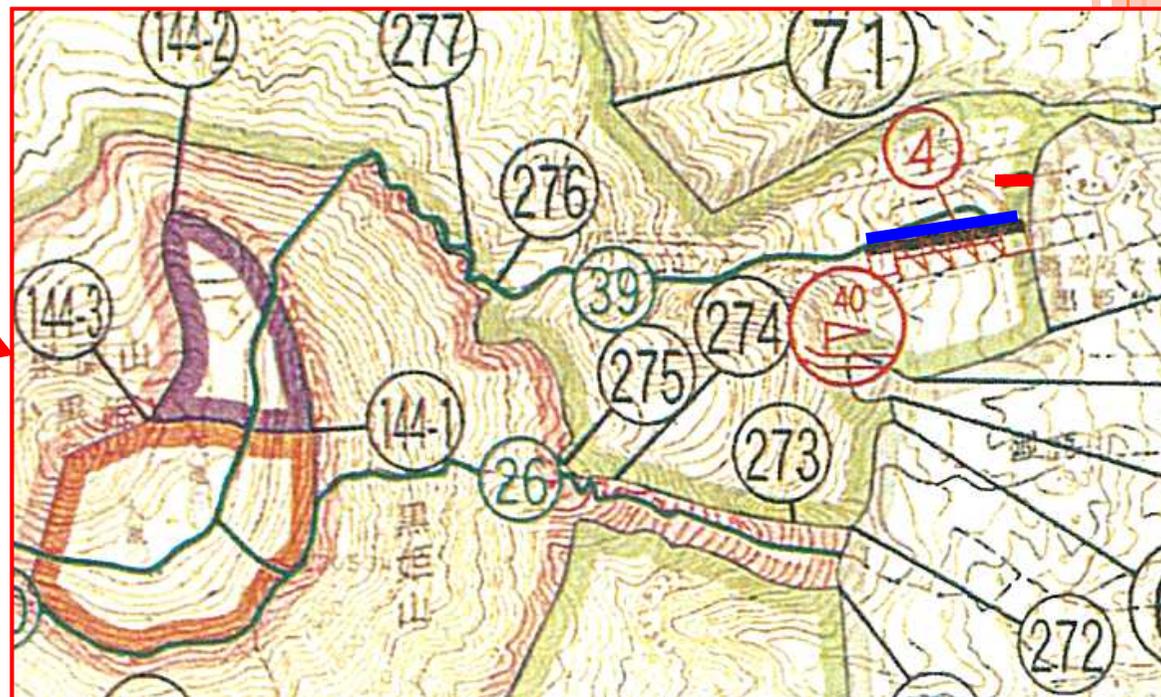
	H19	H20	H21	H22
40人以上	29	28	16	27
50人以上	14	12	7	13
最大宿泊数	65	64	57	65
平均	22	23	20	21

◎区域面積

老朽化が進んでいることから、今後改修等を検討しているが、山岳域の特別保護地区であり、自然環境への影響や維持管理の面から、**現在の規模を越える山小屋の建て替えはない。**

上信越高原国立公園 変更

黒姫山東麓索道運送施設



<事業決定の変更>

路線距離 0.62km → 0.65km
最大輸送量 1200人/時 → 3300人/時

スキー場事業で執行しているリフト1基を夏季も使用
→ 索道運送施設として位置付けるもの

<事業執行予定者> 民間事業者



夏時期の入込人数は約6万人

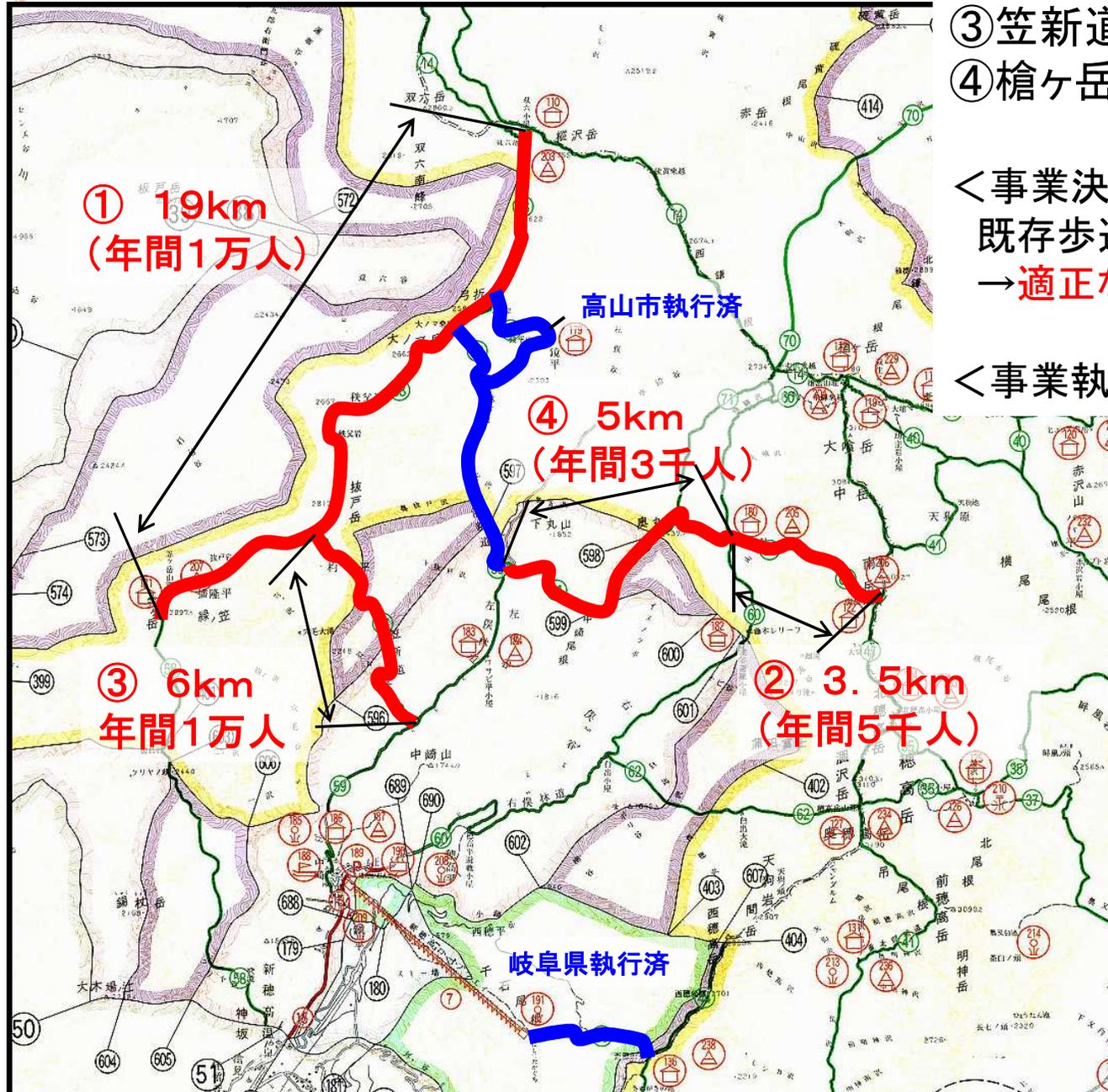
中部山岳国立公園 決定

- ①笠・抜戸縦走線道路(歩道)
- ②槍平・南岳線道路(歩道)
- ③笠新道線道路(歩道)
- ④槍ヶ岳ワサビ平線道路(歩道)

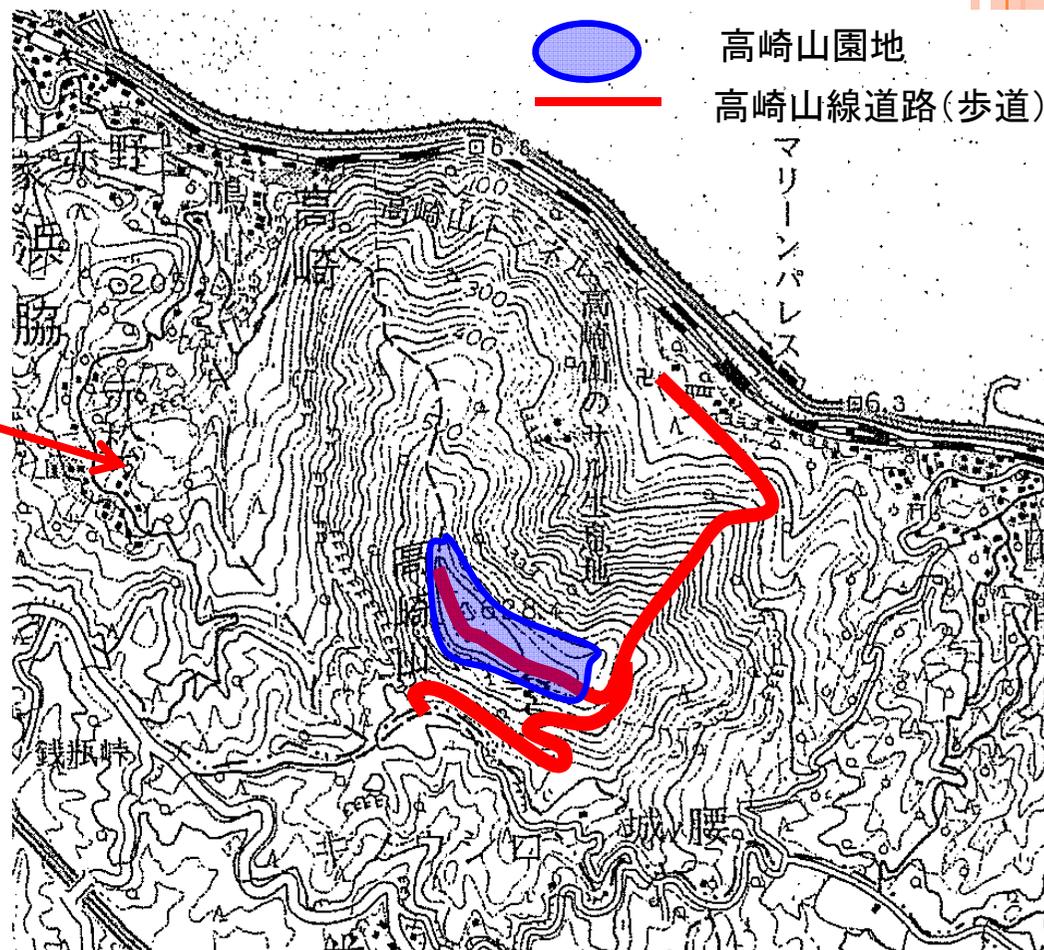
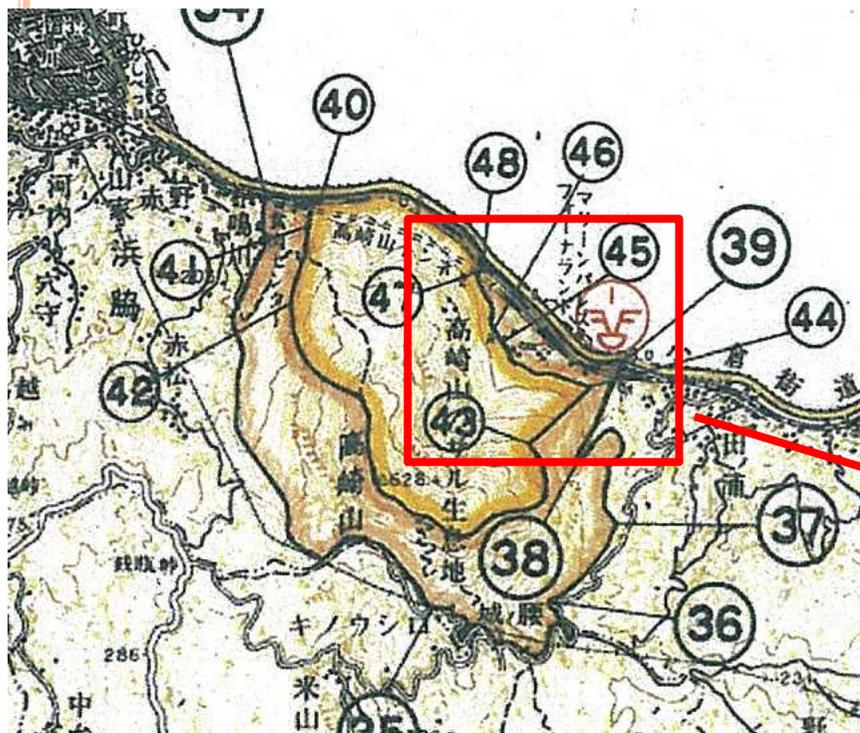
＜事業決定内容＞

既存歩道を公園事業位置づけるもの
→適正な維持管理が行われる。

＜事業執行予定者＞ 高山市



瀬戸内海国立公園 決定 高崎山園地 高崎山線道路(歩道)



<事業決定内容>

園地 区域面積 8.8ha

歩道 路線距離 3km

公園計画における**利用計画追加**に伴う決定

<事業執行予定者> 大分市

登山道



森林セラピーを体感できる散策歩道
※平成23年度より大分市において
森林セラピー魅力創出事業を実施。

登山道入り口に、バイオトイレ2基、登山道途中にベンチや標識を設置予定。

高崎山
頂広場



高崎山山頂の広場。高崎城跡地がある。



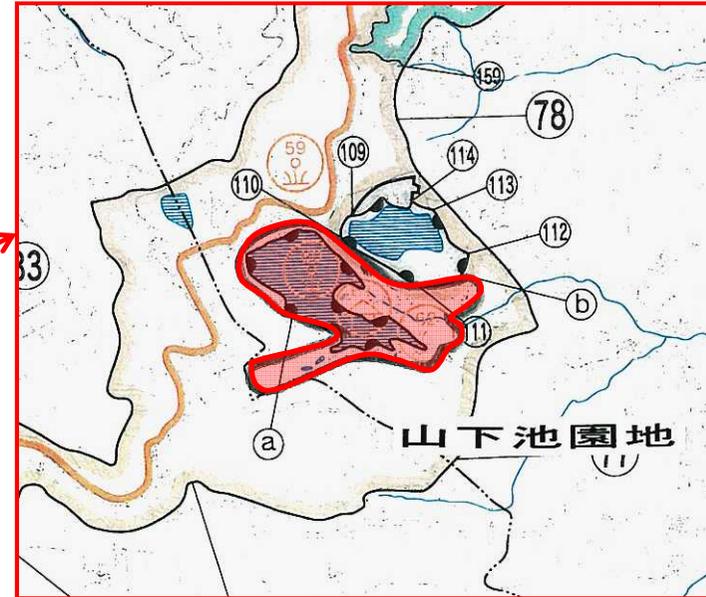
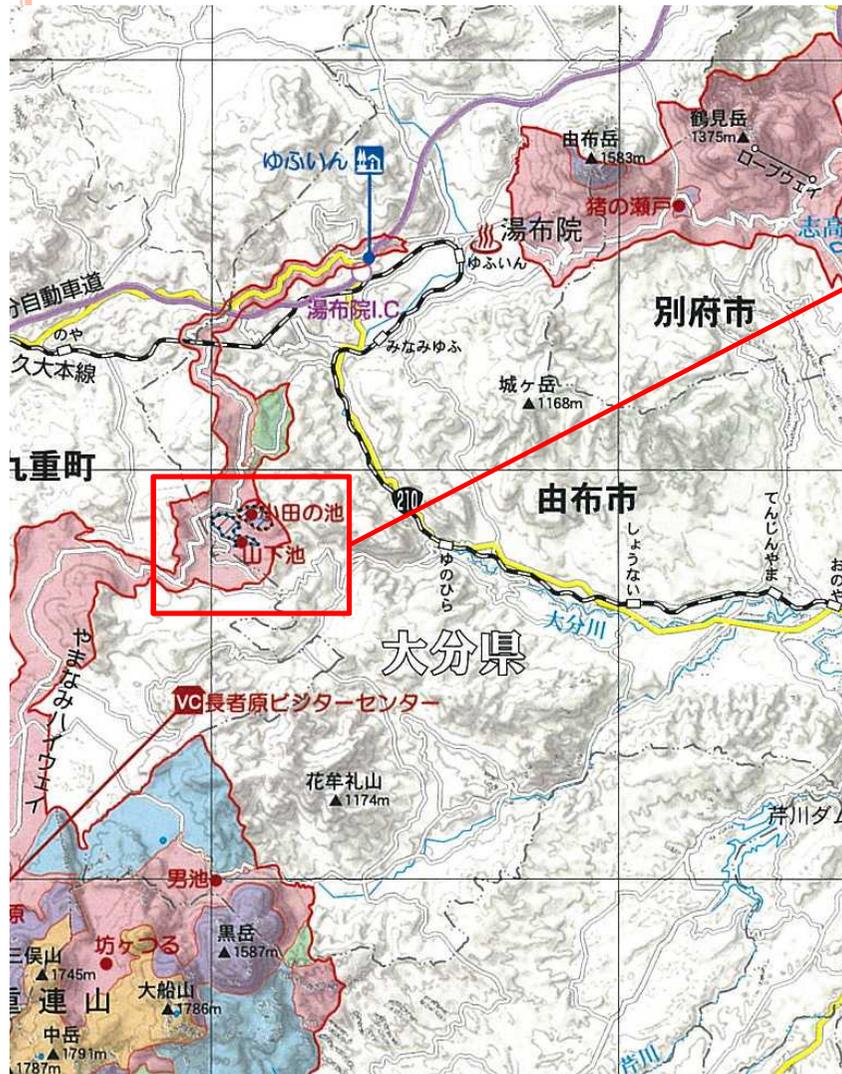
くじゅう連山や別府湾が樹木により望見不可
→ 広場周辺の樹木除伐による眺望確保

13

高崎山を森林セラピーの基地としての整備

→ 高崎山、高崎山自然動物園やうみたまご水族館、田ノ浦ビーチを一体的な観光拠点として活用推進

阿蘇くじゅう国立公園 決定 山下池園地



＜事業決定内容＞

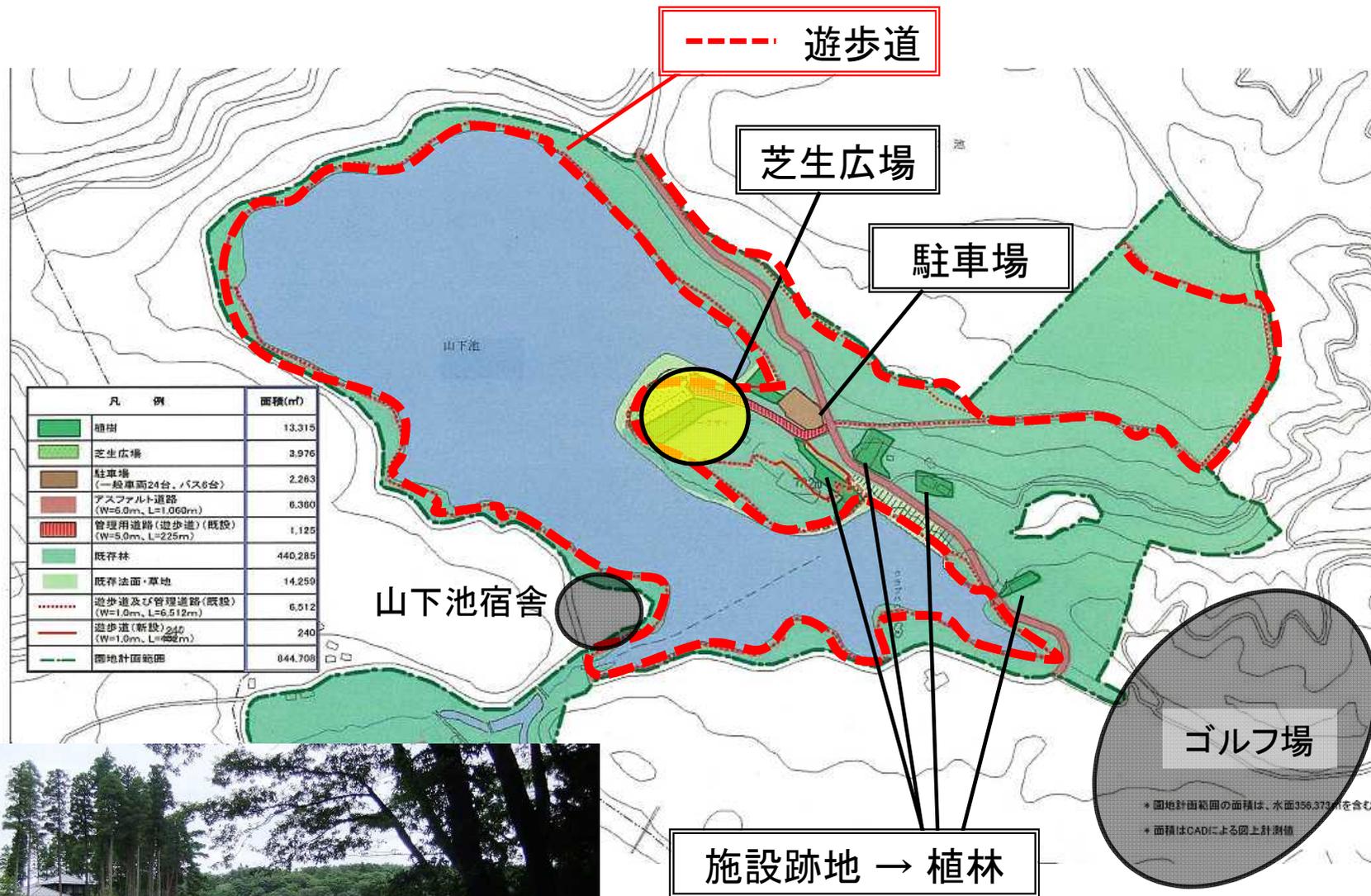
区域面積 85ha

広場、遊歩道など園地整備の実施

山下池宿舎(ロッジ)利用者及びドライブ利用者による自然観察・散策の場としての整備(利用者は年間2100人)

＜事業執行予定者＞ 民間事業者

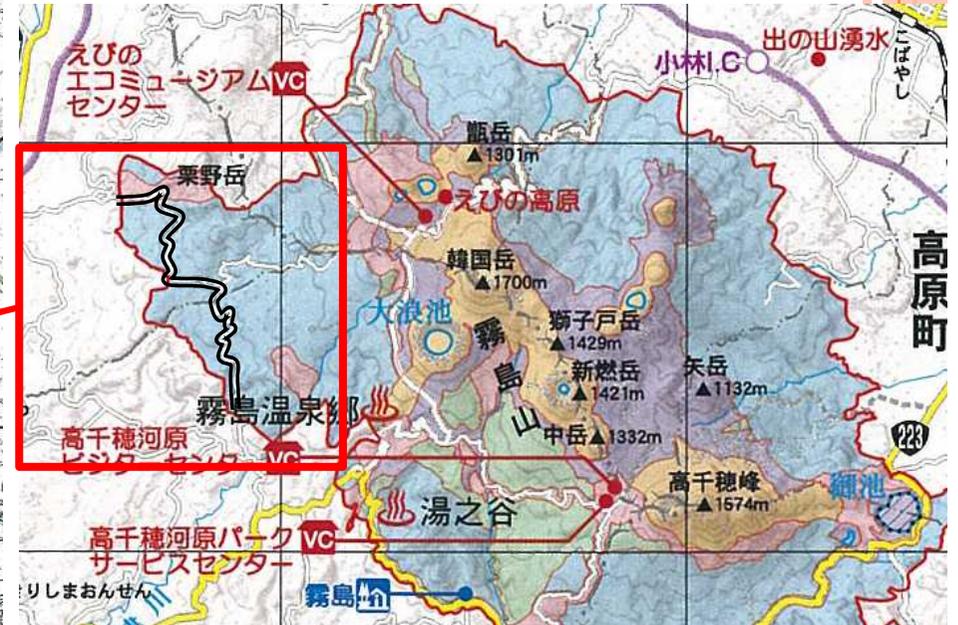
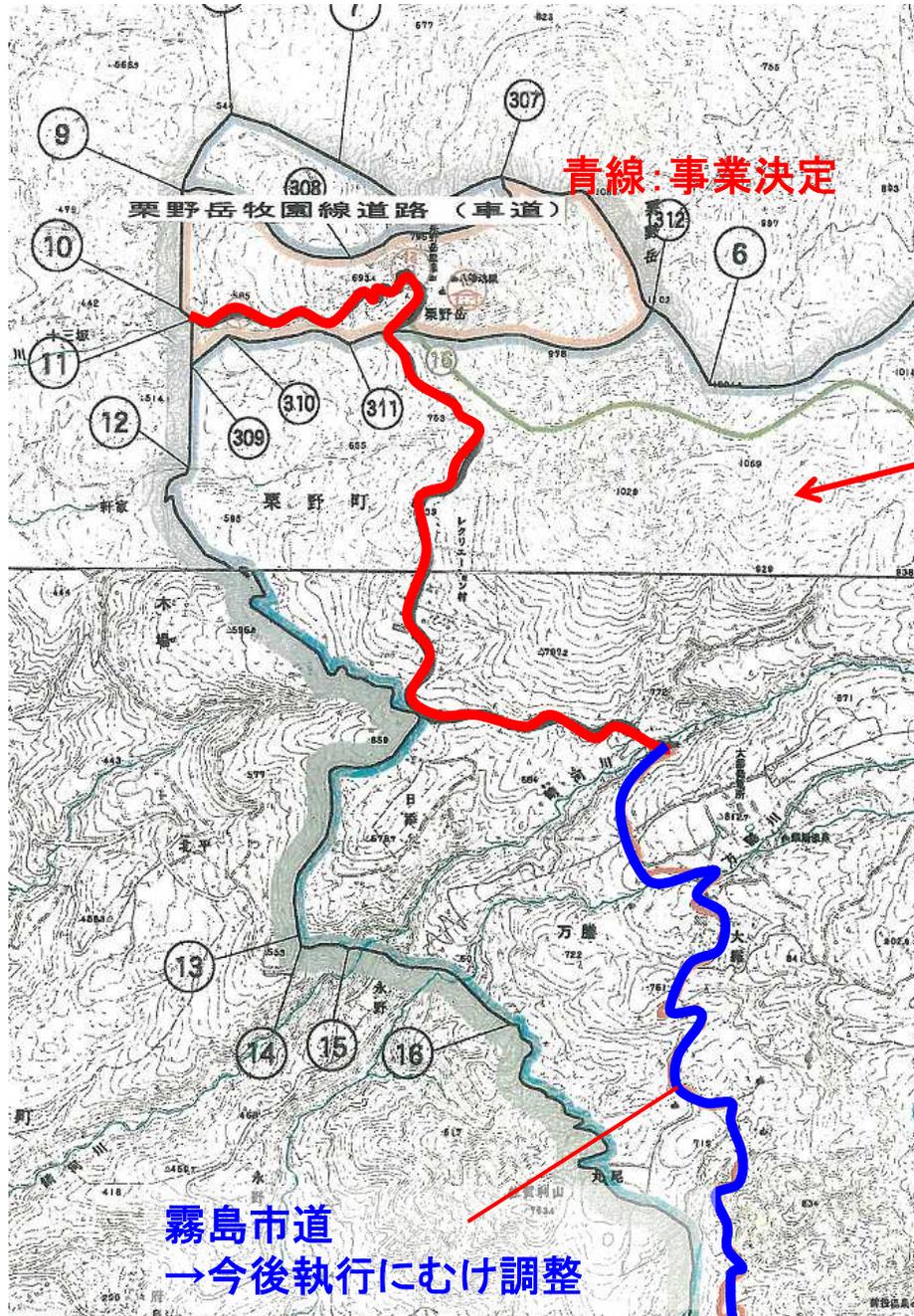
九重レークサイドホテル関連施設を撤去 → 園地整備



公園事業として位置づけられることで、施設撤去、植林など、湖畔の散策を楽しめる場の整備、適正な維持管理が可能となる。

霧島錦江湾国立公園 決定

栗野牧園線道路(車道)



<事業決定内容>

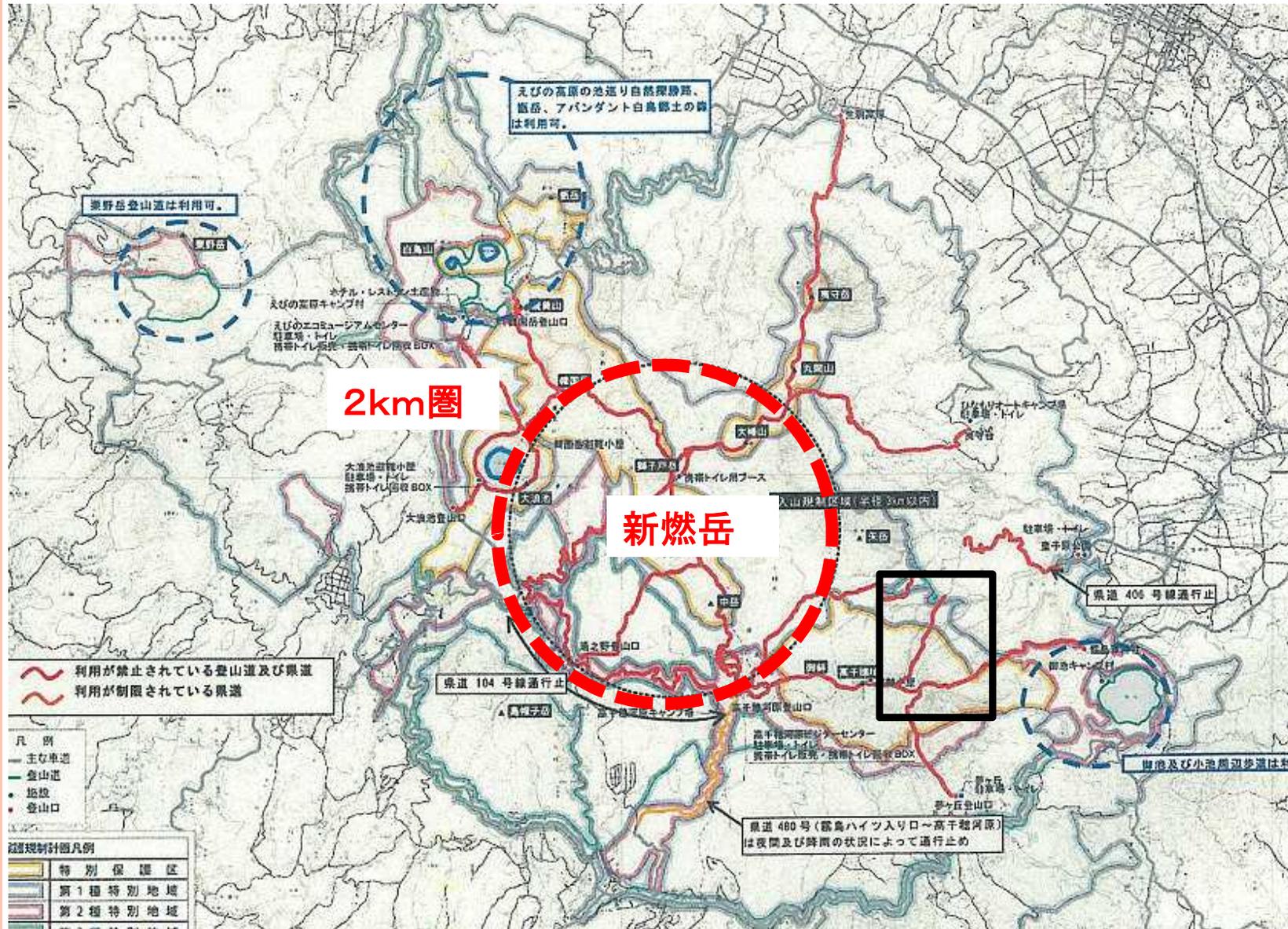
路線距離 5.8km 有効幅員 8m

既存車道を公園事業位置づけるもの
→適正な維持管理が行われる。

<事業執行予定者> 鹿児島県

霧島錦江湾国立公園 決定

皇子原高千穂峰線道路(歩道)



<事業決定内容>

路線距離 2.1km

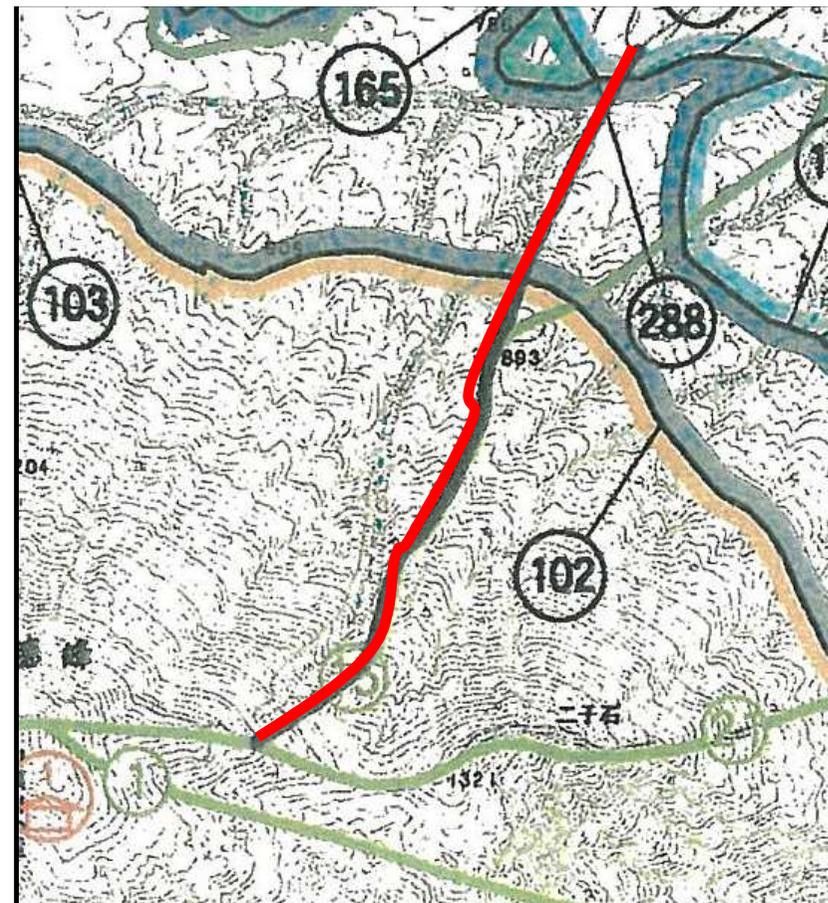
規制区域解除に合わせて、既存歩道を公園事業に位置づけるもの

※新燃岳から4～5kmの範囲



これまではボランティアによる維持管理であったものを町が執行。**適正な維持管理**が行われる。

<事業執行予定者> 高原町



本日の諮問案件②

(公園計画の変更等に伴う事業決定・廃止)

釧路湿原国立公園

塘路園地・野営場・舟遊場・博物展示施設の単独施設の公園計画の廃止

→ 塘路集団施設地区の公園計画指定

→ 塘路集団施設地区及び周辺再整備基本構想に基づき、各施設を再度事業決定

※ 塘路園地・野営場については、現規模に訂正。(区域面積の縮小)

それ以外については、規模の変更なし

屋久島国立公園

分離・単独化による屋久島国立公園の指定

→ 霧島屋久国立公園の公園計画の廃止

→ 各施設を再度事業決定

※ 宮之浦岳縄文杉線道路(歩道)・古岳登山線道路(歩道)以外

については、規模の変更なし

釧路湿原国立公園

塘路集団施設地区



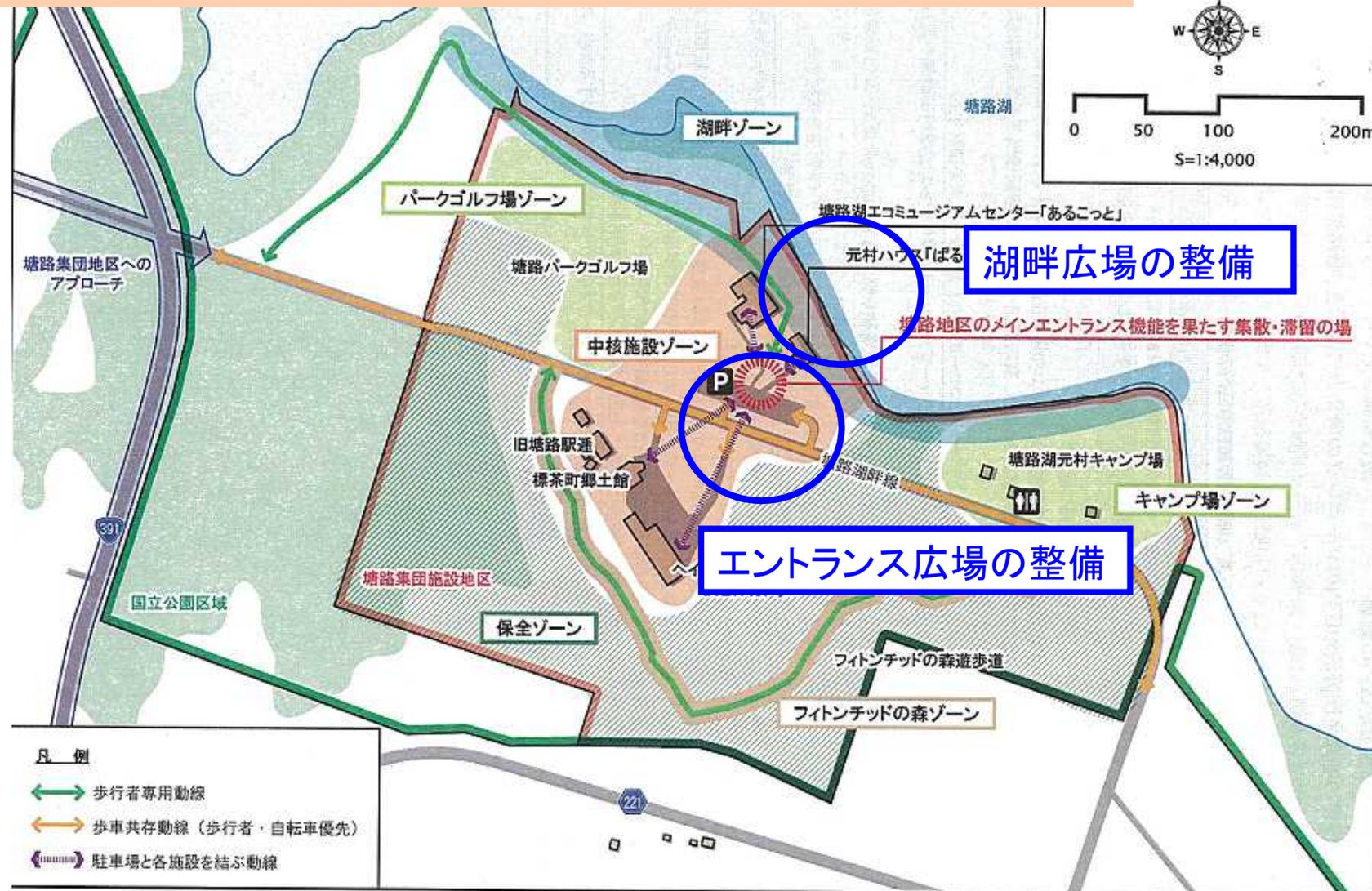
＜決定内容(規模の変更があるもの)＞

園地 25ha → 13.3ha

野営場 4ha → 2.1ha

※塘路園地については、再整備基本構想に基づき、環境省において、再整備を行う予定。

塘路集団施設地区及び周辺再整備基本構想



- 案内標識、塘路湖の解説標識、休憩施設の整備
- ↓
- 塘路地区のメインエントランス・行動起点となる利用者の集散・滞留の場
- 湖の眺望、水際へのアプローチ

塘路集団施設地区及び周辺再整備基本構想

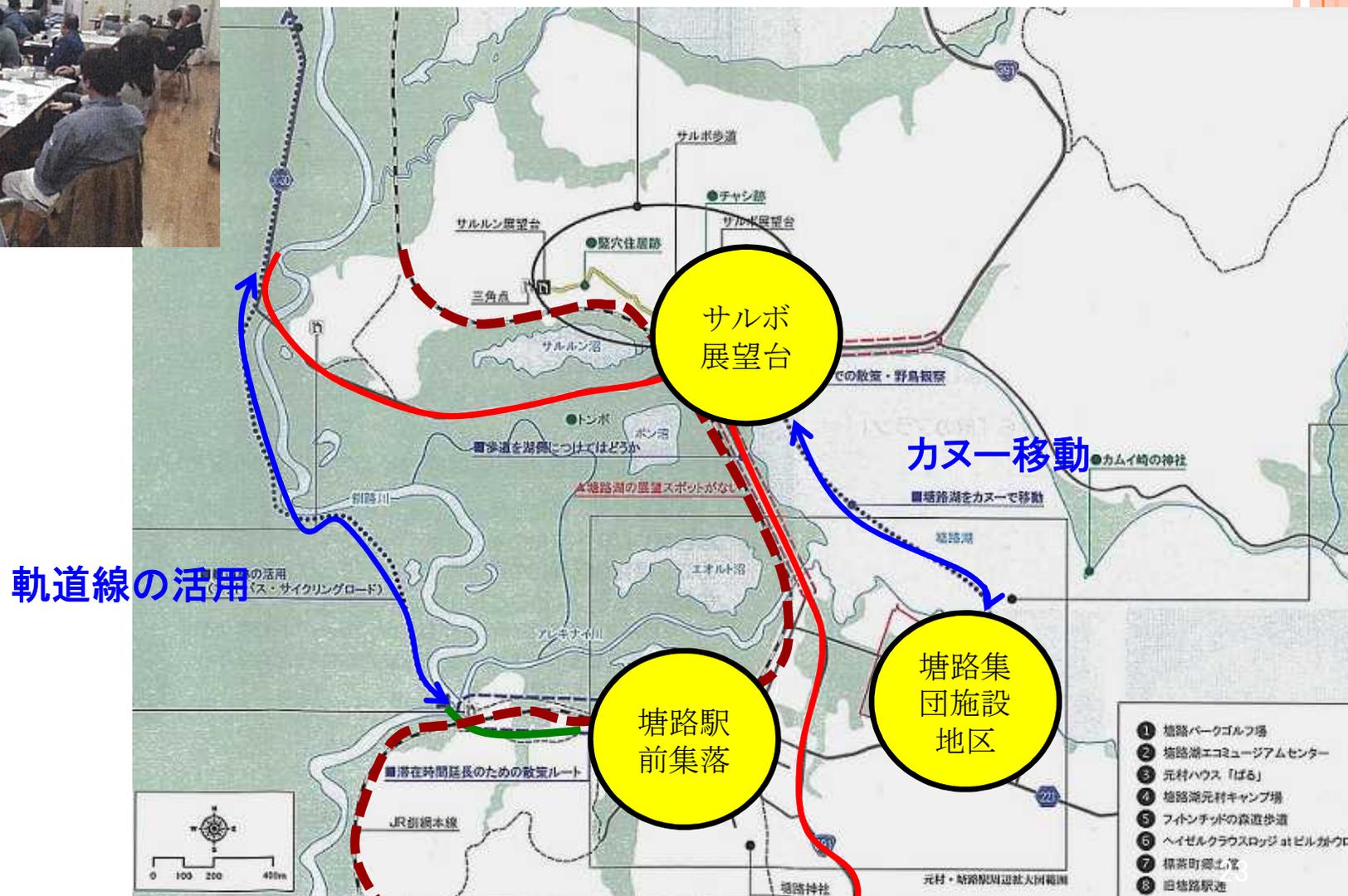


- 湖を身近に感じられる空間の創出
- 旧道跡の活用、竪穴式住居発掘跡地などの野外展示や解説標識による野外フィールドの創出
- ユニバーサルデザインに対応した構造
- フィトンチッドの森の遊歩道への動線確保による周回利用の創出

塘路集団施設地区及び周辺再整備基本構想



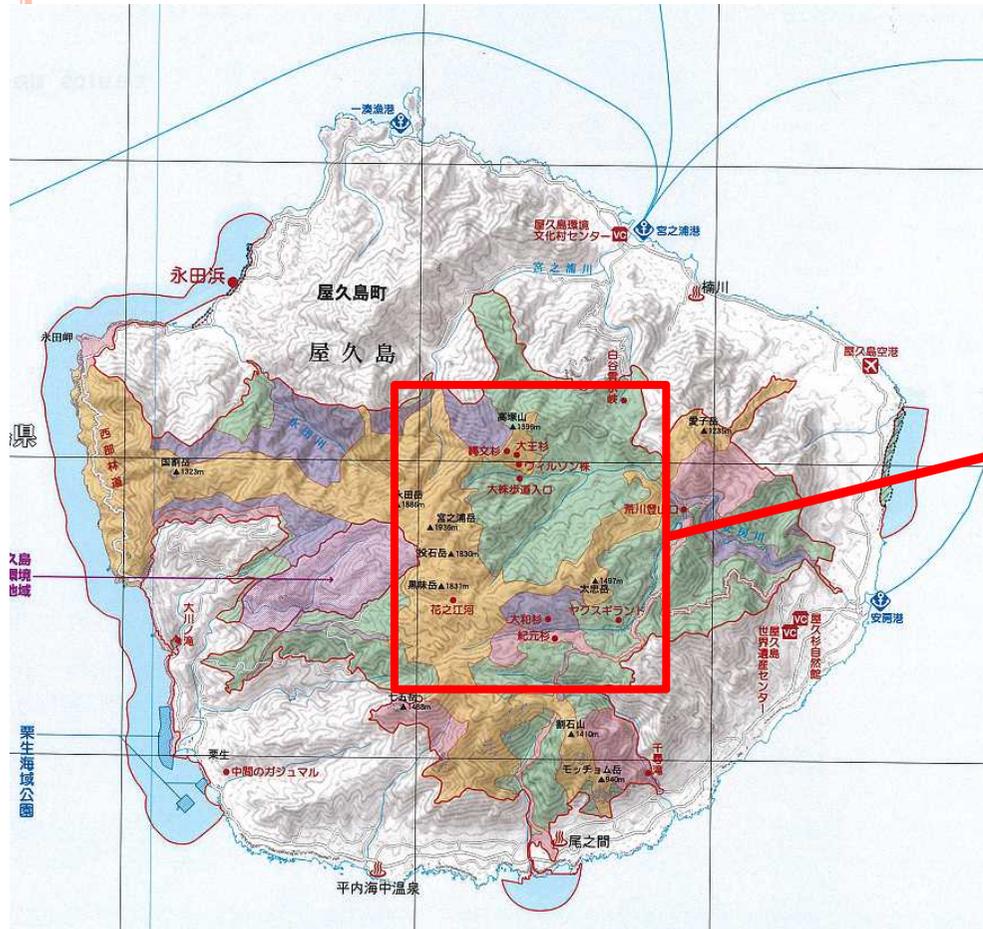
地域の関係者との意見交換会
→塘路地区の旅のプランの提案



- 施設のレベルアップ・利用プログラムの充実による塘路集団施設地区を中心とした公園利用の創出
- より魅力的な自然と歴史・文化体験の場・機会の提供に向けた資源の活用

屋久島国立公園

宮之浦岳縄文杉線道路(歩道)



<決定の内容(規模の変更)>
路線距離 24.9km → 27km

<変更内容>
環境省による黒味岳への登山道の整備



淀川登山口から短い距離で屋久島の自然景観を楽しめるコースとして黒味岳への登山者数が増加



年間4000人程度が利用



踏圧による登山道の浸食・拡幅・植生の荒廃が発生



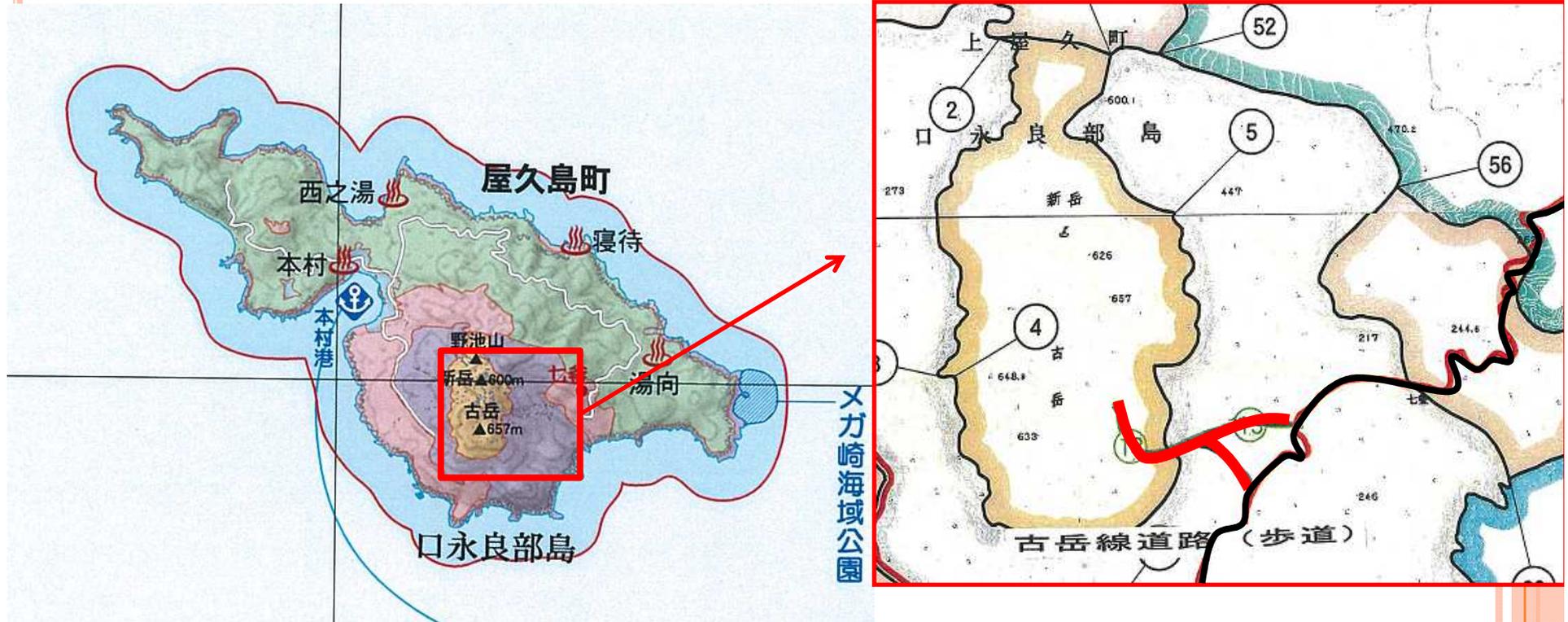
屋久島登山道で行われている石組み事例



近自然工法の石組みによる
必要最小限の整備（700m程度）

屋久島国立公園

古岳登山線道路(歩道)



<決定の内容(規模の変更)>

路線距離 1.5km → 2.5km

<変更内容>

環境省で直轄整備を行った既存路線と合わせて路線を変更



環境省所管地であり、**年間200人程度**の利用者
→直轄歩道として維持管理
標識・進入防止柵・駐車場など必要最小限の整備



- 古岳・新岳ともに**活火山**
- **火口**や**噴気孔**等を見ることが
できる路線
- 気象庁の火山観測に基づき
決定される**警戒レベル**によっ
て**通行規制**を実施。

